

【日本文化専攻】修士課程 第1期(9月)実施
分の外国語「英語」の問題文は著作権上の都合
により掲載しておりません。

ご不便をおかけしますことお詫び申し上げます。

入学年度および実施時期	2025年度 第1期
修士課程・博士課程の別	修士課程
実施研究科	文学研究科
専攻・コース等	日本文化専攻
入試方式	一般入試
科目名	英語
試験実施日	2024年9月4日

解答又は解答例及び出題意図
(試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと)

【出題意図】

著作権上の都合により掲載しておりません

【解答例（採点時の観点）】

著作権上の都合により掲載しておりません

2025(令和7)年度 愛知大学大学院入学試験

(2024. 9月実施)

受験番号	
------	--

修士課程

文学研究科 日本文化専攻	
外国語	
科目名	日本語

採点欄	
-----	--

(辞書の使用可、電子辞書使用不可)

[1] 次の文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

文化庁が行った調査の中に「お荷物のほう、お持ちします」の「のほう」が気になるかという質問事項がある。年長者ほど気になるという人が多い。これまでに述べたように、この表現は、「冗長」ではあるものの「間違い」ではない。正誤だけで言うならば、文法的には正しい。

「のほう」はなくても意味は通じるのにつけているから、余計なものをつけて無駄だと感じられるのは事実だろう。では、なくてよいもの、何の機能もないものをなぜつけるのだろうか。実は、この間には誤解が含まれている。「何の機能もない」と言えるかどうかは難しいところなのである。そこには、正しいか間違いかを(ア)に分けたがる私たちの特質も関わっている。規則で単純化できればよいが、それは、微妙なものもおおざっぱに区分してしまうことになり、繊細さを捨ててしまうことにもなる。

説明は単純なほうがよいと言われ、単純な説明に慣らされているので、ことばの意味や機能は一つだけだと私たちは考えがちである。学校文法でも、「お荷物」の「お」は美称の接頭辞と説明し、「お荷物」は「荷物」の美化語だと説明するので、「お」をつけて「お荷物」と言うと、美化して品位のある表現になっているのだと思いたくなる。確かに「美化語で品位のある表現」なのだが、美化して品位を高めれば無条件で使えるかという、そうではないのである。

「お荷物」は、他人の所有物に対して敬意を払って美化するので、自分の鞆であればいくら美化して表そうと使わない人が多い。「私のお鞆、どこにおいたかしら？」という方がいてもいいのだが、筆者のような冴えないおじさんが自分の鞆を「お鞆」と言おうものなら失笑を買ってしまう。もちろん、「困った厄介者」を指す皮肉なら自分の所有物や関係するものや人を指して使えるが、このときはもう美化語ではない。①知人や家族が私を指して「お荷物」と言い始めたら、美化どころかさげずみに対象になっているのである。

一方、他者の所有物や関係するものなら、「お」や「御」をつけるとそのもの自体を美化して品位の高い表現にするだけでなく、その所有者・関係者に対する経緯も表せる。高めて他者への敬意を表すという点では、尊敬語と似ているが、尊敬語は動作を高めるのに対して、美化語はものを高める。つまり、「お・御」は、美化が基本機能だが、別の機能を持つこともあり、(イ)で逆の意味に解することもあるため、持っている機能を一つにきめつけてはいけないのである。

「のほう」に話を戻そう。「のほう」の「ほう」は、二種類のものがあるときに対比して「外に置いてあるほう」「中に運び入れたほう」などと使うのならば問題はない。お客が二つの鞆を持っているときに、「大きい荷物のほう、お持ちします」なら、「小さい荷物ではなく」ということを暗示できるので問題に感じる人は少ないだろう。お客が荷物を一つしか持っていないのに、「お荷物のほう」と言うので、なくてもよく、(ウ)ないほうがいい、と感じるのである。

「お荷物のほう」などと無駄にあいまいに表現するのはよくないと考える人が多いのは事実であるが、②曖昧さが丁寧さにつながる場合もある。スーパーマーケットやデパートなどの売り場で「ご利用ください」と大声で呼びかけている店員さんがいる。明確にわかるように「買ってください」ではあからさま過ぎて、品位も丁寧さも感じられない。③「買う」を「求める」や「利用する」に置き換えることで品位を確保し、文体レベルを上げているのである。

『日本人も悩む日本語』(加藤重広)

問1 空欄(ア)に入るものとして、最も適当なものを、次の1~5のなかから、一つ選びなさい。

1 シニカル 2 アクティブ 3 ポジティブ 4 アグレッシブ 5 デジタル 解答()

問2 下線部①のように「さげずみ」の対象となるのはなぜか。説明しなさい。

2025(令和7)年度 愛知大学大学院入学試験

(2024. 9月実施)

受験番号	
------	--

修士課程

文学研究科 日本文化専攻	
外国語	
科目名	日本語

採点欄	
-----	--

(辞書の使用可、電子辞書使用不可)

問3 空欄(イ)に入る語として、最も適当なものを、本文中から探し、漢字二字で答えなさい。 解答()

問4 空欄(ウ)に入るものとして、最も適当なものを、次の1~5のなかから、一つ選びなさい。

1 だが 2 つまり 3 むしろ 4 また 5 あるいは 解答()

問5 下線部②「曖昧さが丁寧さにつながる」のはなぜか。本文に即して説明しなさい。

問6 傍線部③を受動文(受け身文)に書き換えなさい。

問7 本文を400字以内で要約しなさい。 解答は別紙

[2] 次のそれぞれの文で、敬語などの表現の誤りを直し、正しい文に書き換えなさい。

1 明日の朝6時に、お車で社長の家までお迎えに行きます。

2 事情をご理解してくれたのでうれしく思います。

3 先生が言ったことについて、私のおじいさんにも意見をうかがってみました。

4 私の会社では、若い女性の方が3~4人働いています。

5 食べたいお寿司が回っていないならば、どうぞ知らせてください。

入学年度および実施時期	2025年度 第1期
修士課程・博士課程の別	修士課程
実施研究科	文学研究科
専攻・コース等	日本文化専攻
入試方式	留学生入試
科目名	日本語
試験実施日	2024年9月4日

解答又は解答例及び出題意図
(試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと)

【出題意図】

授業内容や研究論文を理解することのできる語彙・文法・敬語についての日本語力が身についているか。日本語の文章を理解し、その要点をまとめることができる力を有しているかを見るために、要約を出題した。研究論文を作成する際に必要な読解力および文章をまとめる力があるかを問う出題です。

また、円滑なコミュニケーションのため、高度な日本語の使用者として必要な敬語についても出題しました。

【解答例（採点時の観点）】

〔1〕

問1 5

問2 「お荷物」の意味が正確に捉えられているか、について出題しました。

問3 皮肉

問4 3

問5 直後に「ご利用ください」と呼びかけるのは「買ってください」ではあからさま過ぎて、品位も丁寧さも感じられない。党の表現から解答できる。

問6 「買う」が「求める」や「利用する」に置き換えられることで、品位が確保され、文体レベルが上げられるのである。

問7 文章を正確に読み取り、まとめる力について問います。 解答例 省略

〔2〕

相手側（ソト）のことであるか、自分側（ウチ）のことであるかで、どのような語を使用するのか使いこなすことは大事なことです。また、大問〔1〕の内容にもかかわる（あいまいさが丁寧につながる）点についても、具体的に理解できているかについて出題しました。

解答例

- 1 明日の朝6時に、車で社長のお宅まで迎えに上がります。
- 2 事情をご理解下さったので、嬉しく存じます。
- 3 先生がおっしゃったことについて、祖父に意見を聞いてみました。
- 4 弊社では、女性社員が4名ほど働いております。
- 5 お好きなお寿司がありましたら、どうぞお知らせください。

2025(令和7)年度 愛知大学大学院入学試験

(2024. 9月実施)

修士課程

文学研究科 日本文化専攻	
専門科目	
科目名	論考(その1)

学 部 学 号	
------------------	--

学 期	
--------	--

左の史料は、『信長公記』の、斎藤道三と織田信長の対面の記事である。この史料を読んで、あとの問に答えなさい。

- ① 四月下旬の事候、斎藤山城道三、富田の寺内聖徳寺まで可罷出候間、織田上総介殿も是まで御出候へ、可為初着候、対面有御之趣申越候、此子細へ、此比上総介を偏執候て、聖殿へ大だわけにて候と、道三前二て口々に申候キ、名櫓に人々申候時へ、たわけにてへなく候よと山城連々申候キ、見参候て善悪を見候へん為と聞え候、
- ② 上総介公無御用捨被成御請、木曾川、飛驒川、大河舟渡し打越御出候、富田と申所へ在家七百軒在之、富貴之所也、大坂より代坊主を入置、美濃・尾張之判形を取候て免許之地也、斎藤山城道三存分にへ、美目に無人之田取沙汰候間、仰天させ候て笑へせ候へんとの巧にて、古老の者七八百、折目高成層衣、袴、衣装公道成仕立にて、聖徳寺御堂の縁に並居させ、其まへを上総介御通り候様に構て、先山城道三へ町末之小家に忍居て、信長公之御出之様躰を見申し候、
- ③ 其時信長の御仕立、髪ハちやせんに遊し、もゑきの平打にてちやせんの髪を巻立、ゆかたひらの袖をはつし、のし付之大刀、わきさし二ツなから、長つかにみごなわにてまかせ、ふとき幸なわうてぬきにさせられ、御腰のまはりには猿つかひ之様に火燧袋、ひょうたん七つ八つ付させられ、虎革、豹革四つかはりの半袴をめし、御伴衆七八百覺を並、健者先に走らかし、三間間中柄之宋やり五百本計、弓、鉄炮五百挺もたせられ、寄宿の寺へ御着候て、屏風引廻し、御ぐし折曲に一世の始にゆわせられ、何染被置候を知人なきかちんの長袴めし、ちいさ刀、是も人に知らせず袴をかせられ候をさへせられ、御出立を御家中の衆見申候て、去ては此比たわけを態御作候よと、肝を消、各次第へに斟酌仕候也、
- ④ 御堂へするへと御出有て、縁之御上り候処に、春日丹後・堀田道空さし向、はやく被成御出候と申候へとも、知らぬかほにて、諸侍居なかれたる前をするへと御通り候て、縁の柱にもたれて御座候、暫候て、屏風を推のけて道三被出候、又是も知らぬかほにて御座候を、堀田道空さしより、是え山城殿にて御座候と申時、であるかと被仰候て、敷居より内へ御入候て、道三に御礼ありて、其まへ御座敷二御直り候也、去て道空御湯漬を上申候、互に御盃まいり、道三に御対面無残所御仕合也、附子をかみたる風情にて、又やかて可参会と申罷立候也、
- ⑤ 廿町計御見送り候、其時、美濃衆の鐘へみじかく、こなたの鐘へ長く叩立候てまいり候を、道三見申候て、興をさましたる有様にて、有無を申さず罷帰候、途中あかなへと申所にて、猪子兵介、山城道三に申様へ、何と見申候ても上総介へたはけにて候と申候時、道三申様に、されは無念成事候、山城か子共、たわけか門外に馬を可繫事案之内にて候と計申候、自今已後、道三か前にてたわけと云事申人無之、

2025(令和7)年度 愛知大学大学院入学試験

(2024. 9月実施)

受験番号

修士課程

文学研究科 日本文化専攻	
専門科目	
科目名	選択(その1)

採点欄

【問一】傍線部「上総介」「祝着」「有度」「此比」「さ様」の読みを記しなさい。

上総介	祝着	有度
此比	さ様	

【問二】織田信長が、居城を出立して富田に赴き、聖徳寺で斎藤道三と対面するまでの間、どのような身なり(服装や髪形など)をしていたか、その変化も含めて具体的に記しなさい。

【問三】聖徳寺で斎藤道三と織田信長の対面がなされた際の、斎藤道三・織田信長・堀田道空(道三の家臣)の行動(発言を含む)について、具体的に記しなさい。

【問四】織田信長を見送ったあと、「あかなく」という場所で、斎藤道三と猪子兵介(道三の家臣)が会話を交わしている。その内容について具体的に記しなさい。

入学年度および実施時期	2025年度 第1期
修士課程・博士課程の別	修士課程
実施研究科	文学研究科
専攻・コース等	日本文化専攻
入試方式	一般入試
科目名	選択（その1）
試験実施日	2024年9月4日

解答又は解答例及び出題意図
（試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと）

【出題意図】

日本史の研究においては、文献史料を正確に読み取ることがなにより必要である。こうした能力があるかどうか確かめるために、特徴的な内容を持つ記事を選んで、「古典的な文章の内容を現代文でまとめて記す」という形の問題を出した。また、基礎的な知識を問う問題を冒頭に置いた。ここでは『信長公記』の中の「斎藤道三と織田信長の会見」をとりあげ、信長をはじめとする登場人物の行動や発言を正確に理解できているか問う問題を作成した。

【解答例（採点時の観点）】

〔問一〕 上総介…かずさのすけ 祝着…しゅうちゃく 有度…ありたき
此比…このごろ さ様…さよう

〔問二〕

織田信長は、髪は茶筌の形で、萌黄の平打で茶筌の髪を巻き立て、湯帷子の袖をはずし、熨斗付きの大刀と脇指、束の長いものを、二つとも縄で巻いて、太い苧縄を腕抜きにし、腰のまわりには、猿つかいのように火打ち袋と瓢箪を七つ八つ付け、虎革・豹革の半袴をはくという、とんでもない出で立ちだった。ところが寄宿の寺に着いたとたん、髪をきちんと結び、長袴をはき、小さい刀を指すという、立派な身なりに変えた。

〔問三〕

織田信長は御堂に着いて、縁側に上った。堀田道空が来て、「早く来てください」と言ったが、信長はこれを無視して、侍たちが並んでいる前を通って、縁の柱にもたれかかっていた。しばらくして、斎藤道三が屏風をおしのけて出てきた。信長はこれも無視したので、堀田道空が寄ってきて、「これが山城殿です」と言った。信長は「そうか」と答えて中に入り、道三に礼をして座った。道空が湯漬を出したあと酒を飲み、ほとんど話をせず、「またお会いしましょう」と言って席を立った。

〔問四〕

猪子兵介は斎藤道三に向かって、「どう見ても信長はたわけです」と言った。これを聞いた道三は、「残念な事だ、自分の子どもたちは、あのたわけの門外に馬を繋ぐことになるだろう」（信長の家来になるだろう）と言った。

〔問一〕は解答が決まっているので、採点は容易である。〔問二〕〔問三〕〔問四〕は文章で書く問題なので、「内容をどこまで理解し、現代文で表現できているか」を判断して採点する。まずそれぞれの設問の配点を決め（回答欄の長さにはほぼ比例）、完璧な解答であれば満点とするが、うまく解読できていないところがあるのが一般的なので、こうした部分がどのくらいあるかを見て減点する、という方法をとる。あまりよく解答できていない場合は、少しでも読めているところを捜して採点するが、こうした場合は高得点にはならない。

『名古屋新聞』 一九一四年(大正三)二月六日

● 齋田は如何に決定さるゝか

▼ 模範村等より採用されん

五日宮中神殿に於て大嘗祭供御の齋田点定の御儀を行はせられ、龜卜の古式によりて悠紀の地方を愛知県下尾張の国に、主基地方を香川県下讃岐の国に御点定あらせられ吾が愛知県は此の無上の光榮を浴すること、なりたる

④ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

▲ 古例に依れば主基の地は丹波に、悠紀の地は近江に点定せられたることとて丹波近江の両国にては町村農会より一点定に与からんとて県知事を経て宮内省へ出願せるもの二三百件の多きに達したるも愛知県にては何等の請願がましきことを行はず真に神意のまゝに御指定相成りたるものなりと県当局者は語りつゝありたり愈々齋田点定は何郡何村に決せらるべきかは今後県当局者及び大札使との間に慎重調査の上ならでは判定し難し然るに尾張の国にては

▲ 古来知多米の声価高く知多郡佐布利米の如きは品質の良好を以て優れ勝川米また声名あり近來模範農村として其の名高き東春日井郡志段味村諏訪原新田は高燥なる沃土にして米質頗ぶる優良なれば齋田点定には相応しかるべし又西春日井郡北里村大字小針も純粹農村として近時模範の称あり米質また優良なればこれ等の中にて決定せらるべきか孰れにしても齋田決定には諸種の嚴肅なる御儀式も行はれ大札使県当局者等との間の往復頻繁なるべければこれ等の内にて交通の便利よき地方を選定さるべきかと云へり又

▲ 熱田神社には神田の設置ありて供御米を産出し来りたるも反歩僅少なれば今回の御齋田なるべきや否や寛束なし目下本県にては御即位式を紀念して各郷村社のために町村農会には神田を設置し原種栽培のことを發願しつゝあれば今回の御点定を機会として此等の神田設置は各村に亘りて行はるべしと想像せらる十一月の即位式迄にはいかなる稲種と雖も、播種の時期を加減すれば收穫に後るゝことなるべく、三河にては早稲関取最も早く收穫さるゝも尾張部に於ては神力種多しと

告示号外

来ル十一月十三日行ハセラルヘキ大嘗祭ノ悠紀齋田ハ左ノ通り相定ム

大正三年三月六日

愛知県知事法学博士 松井 茂

一 齋田ノ所在 愛知県碧海郡六ツ美村大字下中島字

上丸ノ内

二 齋田ノ面積 四反歩

三 齋田ノ所有者 愛知県碧海郡六ツ美村大字下中島五十九番戸平民農

勲七等 早川定之助

愛知県史編さん委員会編『愛知県史資料編 二八 近代三 政治・行政三』

入学年度および実施時期	2025年度 第1期
修士課程・博士課程の別	修士課程
実施研究科	文学研究科
専攻・コース等	日本文化専攻
入試方式	一般入試
科目名	選択（その1）
試験実施日	2024年9月4日

解答又は解答例及び出題意図
（試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと）

【出題意図】

日本史の研究においては、文献史料を正確に読み取ることがなにより必要である。こうした能力があるかどうか確かめるために、特徴的な内容を持つ記事を選んで、「古典的な文章の内容を現代文でまとめて記す」という形の問題を出した。また、基礎的な知識を問う問題を冒頭に置いた。ここでは『信長公記』の中の「斎藤道三と織田信長の会見」をとりあげ、信長をはじめとする登場人物の行動や発言を正確に理解できているか問う問題を作成した。

【解答例（採点時の観点）】

〔問一〕 上総介…かずさのすけ 祝着…しゅうちゃく 有度…ありたき
此比…このごろ さ様…さよう

〔問二〕

織田信長は、髪は茶筌の形で、萌黄の平打で茶筌の髪を巻き立て、湯帷子の袖をはずし、熨斗付きの大刀と脇指、束の長いものを、二つとも縄で巻いて、太い苧縄を腕抜きにし、腰のまわりには、猿つかいのように火打ち袋と瓢箪を七つ八つ付け、虎革・豹革の半袴をはくという、とんでもない出で立ちだった。ところが寄宿の寺に着いたとたん、髪をきちんと結び、長袴をはき、小さい刀を指すという、立派な身なりに変えた。

〔問三〕

織田信長は御堂に着いて、縁側に上った。堀田道空が来て、「早く来てください」と言ったが、信長はこれを無視して、侍たちが並んでいる前を通って、縁の柱にもたれかかっていた。しばらくして、斎藤道三が屏風をおしのけて出てきた。信長はこれも無視したので、堀田道空が寄ってきて、「これが山城殿です」と言った。信長は「そうか」と答えて中に入り、道三に礼をして座った。道空が湯漬を出したあと酒を飲み、ほとんど話をせず、「またお会いしましょう」と言って席を立った。

〔問四〕

猪子兵介は斎藤道三に向かって、「どう見ても信長はたわけです」と言った。これを聞いた道三は、「残念な事だ、自分の子どもたちは、あのたわけの門外に馬を繋ぐことになるだろう」（信長の家来になるだろう）と言った。

〔問一〕は解答が決まっているので、採点は容易である。〔問二〕〔問三〕〔問四〕は文章で書く問題なので、「内容をどこまで理解し、現代文で表現できているか」を判断して採点する。まずそれぞれの設問の配点を決め（回答欄の長さにはほぼ比例）、完璧な解答であれば満点とするが、うまく解読できていないところがあるのが一般的なので、こうした部分がどのくらいあるかを見て減点する、という方法をとる。あまりよく解答できていない場合は、少しでも読めているところを捜して採点するが、こうした場合は高得点にはならない。

入学年度および実施時期	2025年度 第1期
修士課程・博士課程の別	修士課程
実施研究科	文学研究科
専攻・コース等	日本文化専攻
入試方式	一般入試
科目名	選択（その2）
試験実施日	2024年9月4日

解答又は解答例及び出題意図
(試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと)

【出題意図】

- 問1、3は歴史的基礎知識を有しているかを問う問題。
 問2は歴史用語の読みができるかを問う問題。
 問4、6は史料を正確に解釈できるかを問う問題。
 問5は史料から読み取れる事実と通説との相違を指摘できるかを問う問題。

【解答例（採点時の観点）】

- 問1 天皇の即位後の新嘗祭に行われる即位儀礼。
 問2 ゆき すき
 問3 大嘗祭に必要となる新米を栽培、収穫する。
 問4 我が愛知県はこの上ない光栄をうけることとなったが、正午に早くも宮内省から電報で、この趣旨が本愛知県へ内々に連絡があった。ちょうど名古屋に来ていた澁澤榮一氏を訪問していた松井愛知県知事は、この光栄なる内々の命令を受けて、涙を流した。すぐに命令を下して、「ありがたく受けます」と宮内省へ返信の電報を出し、一方で原口産業課長と山崎農林学校長へもこのことを通報させた。
 問5 前近代では旧国を直接指名するだけであったが、今回は県を介しての旧国指名となった。
 前近代ではおもに、主基は丹波国、悠紀は近江国が点定されていたが、（古例に遡って）占いで決めた。
【別解】・主基は都（京都）からみて西、悠紀は都からみて東の旧国が指名されていたが、今回は都（東京）からみてどちらも西の旧国が指名された。
 問6 宮内省は尾張国を点定したが、愛知県は三河国を点定した。

入学年度および実施時期	2025年度 第1期
修士課程・博士課程の別	修士課程
実施研究科	文学研究科
専攻・コース等	日本文化専攻
入試方式	一般入試
科目名	選択（その3）
試験実施日	2024年9月4日

解答又は解答例及び出題意図
(試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと)

【出題意図】

日本語の研究、なかでも日本語史を研究対象とする上で必要な基礎知識が身についているか。また、その知識について、具体例を挙げながら、説明する力を持っているかどうか。わかりやすく説明しているかという力をみる意図で出題しました。論文をまとめるために必要な、知識だけでなく文章力を有しているかという点についても出題意図になります。

【解答例（採点時の観点）】

〔1〕 解答する際の観点を説明します

- ① 集団語の捉え方 どのような語を集団語と考えるのか、個別例を挙げながら具体的に示すことと、集団語が使用されるのにはどのような理由があるのか等について説明してください。
- ② 漢字は日本語にとってとても重要な文字です。呉音はどのような時代に伝わり、どのような語彙にみられるのか等、漢音や唐音と比較しながら説明してください。
- ③ 開音節は日本語の音節の特徴です。これが日本語の音節数が少なくなることも関係があります。それが日本語の語彙にどのような影響を与えているのか等、説明してください。
- ④ 係り結びは古代日本語に特徴的な文法現象です。これがどのような機能を持っていたのか。また、どのようになぜ衰退したのか等については、古代語から近代語への変化を捉えるうえで重要なことであるので、これについて説明してください。

〔2〕

解答する際の観点を説明します。

語彙を増加させる方法にはどのようなほうほうがあるのか、その方法を整理することと、それを文章でまとめる力があるか見るものです。

新たな概念や事物などが増えれば、それを表す新たな語が必要となります、これは複合語や派生語を作るだけではなく、既にある語に別の意味を持たせ多義語や同音異義語を増やすこともあります。比喩ともかかわります。さらに外来語を受け入れたり、新語を作ったりするという方法もあります。これらを整理し、文章にまとめてください。

2025(令和7)年度 愛知大学大学院入学試験

(2024.9月実施)

修士課程

文学研究科 日本文化専攻	
専門科目	
科目名	選択(その4)

受験番号	
------	--

採点欄	
-----	--

一、 『源氏物語』の語彙の特色について具体的な例をあげながら述べよ。

二、 古代から現代にかけての《形容詞》の歴史的変遷と各時代の特色について述べよ。

三、 上代特殊仮名遣いについて述べよ。

入学年度および実施時期	2025年度 第1期
修士課程・博士課程の別	修士課程
実施研究科	文学研究科
専攻・コース等	日本文化専攻
入試方式	一般入試
科目名	選択（その4）
試験実施日	2024年9月4日

解答又は解答例及び出題意図
(試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと)

【出題意図】

語彙の豊富さや表現の豊かさにおいて日本古典文学の頂点に立つ『源氏物語』に関する設問を一とし、それを踏まえながら古代から現代にかけての「形容詞」の史的変遷を二で問うこととした。三では、古代日本語の基礎的知識ともいえる「上代特殊仮名遣い」について問い、古代から現代に至る日本語学の知識・見識とともに、専門的・学術的な論述力の見定を旨とした。

【解答例（採点時の観点）】

- 一、『源氏物語』の語彙の特色に関する設問であり、採点時の観点を記すと次の通りである。異なり語数約11000、延べ語数約210000語からなる『源氏物語』の語彙の特色を他作品と比べながら論述することが求められる。特に動詞・名詞・形容詞・形容動詞等の品詞別に平安貴族社会の美意識や自然観に基づく『源氏物語』の語彙について論述するならば、実証的・分析的に語彙の豊富さについて述べることになる。また、設問二との関連から形容詞や形容動詞の語彙をとりあげて、『源氏物語』の心情・状態を表す語彙の特色を論ずるのも効果的である。さらに、接尾辞「げ」「か」「やか」等による語の派生に触れながら、新たに創出された語や造語について論述する方法もある。具体的な語例と言語量を見据えて論述しているか否かを採点時のポイントとし、独自の見解についても実証性・論理性があれば評価の対象とした。
- 二、《形容詞》の歴史的変遷と各時代の特色に関する設問であり、採点時の観点を記すと次の通りである。《形容詞》語彙は時代によって特色があり、形容詞の接尾辞「し」「い」は造語力をそなえつつ各時代ごとに新語を生み出している。解答に際しては、古代から現代にかけての《形容詞》の通時的变化をたどり、文献に残る千数百年の《形容詞》の特色の概観することが求められる。採点時の観点を記すと次の通りである。形容詞語彙が飛躍的に増加・発達する平安時代に焦点を当てながら、それ以前・以降に三分して論述すると論理展開がスムーズであるが、歴史的観点を取り入れながら現代語にスポットを当て、接尾辞「い」の造語力ないしは現代語（表記論含む新語・流行語・若者言葉）に関する論述も可とした。具体的な例に基づく実証的な論述であれば、独自の見解や新見についても採点の対象とした。
- 三、古代日本語に関する「上代特殊仮名遣い」についての設問である。解答に際しては、キヒミケヘメコソトノヨロモと濁音に関する万葉仮名表記の二通りの区別について述べ、古代日本語が八母音（「イ・エ・オ」甲類・乙類）からなっていたことを中心に論述する必要がある。採点においては、最初にこれを指摘した本居宣長『古事記伝』

を受けての石塚龍磨『仮名遣奥山路』、近代に入ってから橋本進吉らによる研究史に触れているか否か、甲類仮名と乙類仮名の表記を音声・音韻・意味の観点からどのように捉えるか等についての昨今の研究動向を踏まえた言及も採点の対象とした。

入学年度および実施時期	2025年度 第1期
修士課程・博士課程の別	修士課程
実施研究科	文学研究科
専攻・コース等	日本文化専攻
入試方式	一般入試
科目名	選択（その5）
試験実施日	2024年9月4日

解答又は解答例及び出題意図
(試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと)

【出題意図】

【解答例（採点時の観点）】

① 以下のような作品を具体的に引き、「老い」が、自己認識を揺るがす契機として、あるいはそれぞれの時代性・宗教観を映す表象として描かれていることを分析し、論述する。

『竹取物語』「かの都の人は、いとけうらに、老をせずなん。思ふ事もなく侍る也。さる所へまからむずるも、いみじくも侍らず。老いおとろへ給へるさまを、見たてまつらざらむこそ、恋しからめ」／『伊勢物語』八十八段「昔、いと若きにはあらぬ、これかれ友だちども集まりて、月を見て、それがなかに一人、おほかたは月をもめでじこれぞこのつもれば人の老となる物」／『平家物語』「齋藤別當、兼光にあふて、つねは物語に仕候し。「六十にあまッていくさの陣へむかはん時は、びんびげをくろう染てわかやがうどおもふなり。そのゆへは、わか殿原にあらそひてさきをかけんもおとなげなし、又老武者とて人のあなどらんも口惜かるべし」と申候しが、まことに染て候けるぞや。」／『日本永代蔵』巻四「祈る印の神の折敷」「人は十三才迄はわきまへなく、それより廿四五までは親のさしづをうけ、其後は我と世をかせぎ、四十五迄に一生の家をかため、遊樂する事に極まれり」

② 『古今和歌集』巻頭歌であり、巻頭に据えられる意味（暦を策定し施行することは王朝の責務とされており、政治性が反映されている）について説明する。その一方で、正岡子規「再び歌よみに与ふる書」の「先づ古今集といふ書を取りて第一枚を開くと直に「去年とやいはん今年とやいはん」といふ歌が出て来る実に呆れ返つた無趣味の歌に有之候」という言説にうかがえるように、国学以来の堂上和歌批判の系譜において、その槍玉に挙がる歌であることを指摘し、和歌をどのように捉えるか、自分の考えるところに基づいて論述する。

③ 前提として、この文章が何であるか把握していることを求める。・その上で、自身の抱く「古典」観に基づいて論述する。どのように評価するかはそれぞれの立場によるものであり、それ自体に優劣の評価はしない。むしろ主体的に考察したものであることが評価される。但し、知識として『古事記』と『日本書紀』の特質（前者は偽書として疑われた経緯、後者は正史であること）を踏まえて論述することが求められる。

④ 自身の抱く「古典」観に基づいて論述する。どのように評価するかはそれぞれの立場によるものであり、それ自体に優劣の評価はしない。むしろ主体的に考察したものであることが評価される。但し、そこに伝統や国民性などの価値判断を示す場合には、その根拠を明確に論述することが求められる。

2025(令和7)年度 愛知大学大学院入学試験

(2024. 9月実施)

修士課程

文学研究科 日本文化専攻	
専門科目	
科目名	選択(その6)

受験番号	
------	--

採点欄	
-----	--

(1) 「人新世 (Anthropocene)」という概念がある。人類の諸活動が地球の生態系や気候変動などに大きな影響を及ぼすようになった時代を意味する概念だが、「人新世」と密接に関わるとされる近現代文学を一つ挙げ、「人新世」という文脈の中でその作品が有する批評性について論じよ。

(2) 昭和二(一九二七)年に芥川龍之介と谷崎潤一郎との間に生じた、近代文学史的に重要な論争がある。「話」らしい話のない小説」論争、あるいは「小説の筋」論争と呼ばれるものだが、この論争の概略を説明した上で、両者の取った立場に対する自らの考えを述べよ。

(3) 次の三人の文学者の中から一人を選択し、その生涯と文学について知るところを述べよ。(記述は裏面)

[①泉鏡花、②江戸川乱歩、③安部公房]

入学年度および実施時期	2025年度 第1期
修士課程・博士課程の別	修士課程
実施研究科	文学研究科
専攻・コース等	日本文化専攻
入試方式	一般入試
科目名	選択（その6）
試験実施日	2024年9月4日

解答又は解答例及び出題意図
（試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと）

【出題意図】

修士課程については大問3問とした。1問目は「人新世」という、日本近代文学のみならず、人文諸科学、自然科学分野にも関わる大きなテーマをまず取り上げ、人類の諸活動が地球上の生態系や気候変動などに大きな影響を及ぼすようになった地質年代を意識した上で、それに関わる近現代文学について論述させる問題である。「人新世」（Anthropocene）の概念を解答者が理解しているか、また現在我々が直面する喫緊の課題を解答者が自らの問題として受け止め、それを専門とする学問領域に接続することができるか、を問うところに出題意図がある。2問目は昭和2年に起きた「「話」らしい話のない小説」論争（「小説の筋」論争）を問う設問であり、日本近代文学史の専門的知識を問う出題意図がある。3問目は、三名の中から一人の文学者を選び、文学史的知識を問う設問である。

【問1 解答例（採点時の観点）】

問1は、人新世を「人類が地球上の環境や生態系に多大な影響を及ぼすことになった地質時代」という前提をまず踏まえる。その上で、たとえば気候変動が大きく関わる日本近代文学作品として安部公房の『第四間氷期』を取り上げて論じる。『第四間氷期』は気候変動によって海面が急激に上昇し、地上で人間が生きられなくなる未来を描いている。作品ではそのような未来に備え、水中で生きられる「水棲人間」を製造するべく人間の遺伝子レベルからの計画的改造が進められていく。現在も猛暑や大雨など気候変動に伴う生活の変化を我々は強いられているが、さらにラディカルな変動が起こる未来をいかに感受し、いかにその未来に処するのか、近代文学作品を通して解答者のヴィジョンを問いたい。

【問2 解答例（採点時の観点）】

芥川龍之介と谷崎潤一郎との間で交わされた昭和2年のこの論争は、明治40年代以来、私小説が中心であった日本近代文学において重要な意味を有する。芥川は反私小説的な小説家として虚構性を重視してきたが、晩年に近づくにつれ、私小説的な作品を多くものするようになる。つまり、次第に「話らしい話のない小説」を量産するようになるのだが、それは単純な私小説ではなかった。たとえば芥川が自殺する直前の作品「蜃気楼」は、志賀直哉の「焚き火」を範としながら、夢や蜃気楼的な錯覚などを盛り込み、単なるリアリズム的私小説とは異なる不思議な味わいの傑作である。ただし、反私小説的な作家として虚構を重視する谷崎にはその微妙なニュアンスは伝わらず、芥川が私小説に屈伏したように見えた。ここに両者の擦れ違いがあり、近代文学史上の重要な結節点があることを論じる。

【問3 解答例（採点時の観点）】

②の江戸川乱歩について、たとえば探偵小説や怪奇小説として近代文学のメインストリームの外部に位置づけられてきたこの作家の文学的的重要性について論じる。